

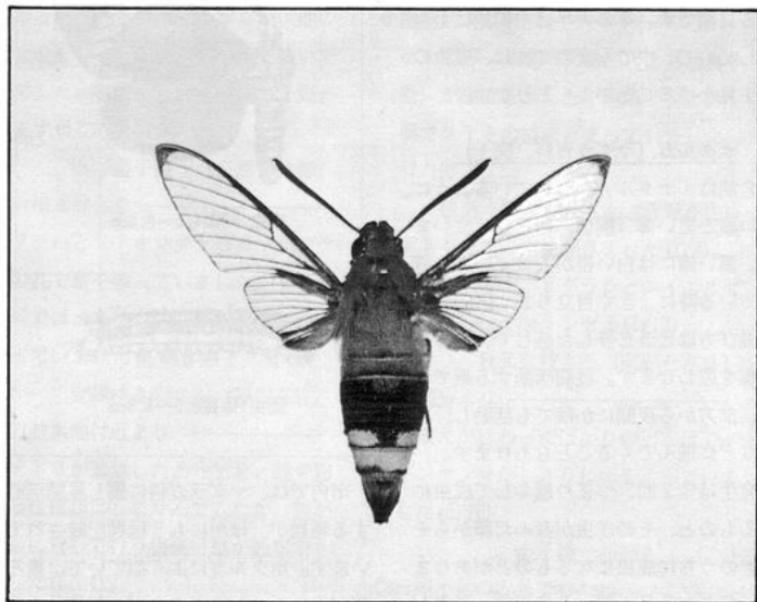
# 市川自然博物館

## 8・9月号

(通巻第57号)

## だより

いち  
かわの  Ⅲ. 昼間活動する蛾



△昼間活動する蛾の中でも、目にする機会の多いオオスカシバ。  
翅は鱗粉がなく透明で、動きも素早いのでハチに間違われる  
ことがよくあります。写真はオス。

蛾と蝶の区別をどの点でするかは、よく話題になります。蛾は夜間活動し、蝶は昼間活動する、というのが日常にはよく使われている点です。しかし、生物の分類というのは本来、そういった習性に基づくものではないので、分類上は蛾に属していても、昼間活動するという場合も出てきます。今回は、そのような蛾を紹介します。

## ●市内でよく見られる種類

昼間活動する蛾のうちで市内で記録されているのは、6科（マダラガ科、スカシバガ科、ホソハマキモドキガ科、シャクガ科、ヒトリガ科、スズメガ科）に属する14種です。その大半は市街地にも生息していて、中でも次の3種は、成虫の姿を見かけることがよくあります。

### 1. ホタルガ（マダラガ科、図1）

名前に「ホタル」がついているように、赤い頭と黒い体（胴体、翅）をしています。黒い翅には白い帯が入っていて、飛んでいる時に、よく目立ちます。

飛び方はヒラヒラした感じで、その姿は蝶を思わせます。昼間活動する蛾ですが、夕方から夜間にかけても活動し、街燈などに飛んできるともあります。

発生は年2回、つまり越冬して成虫になるものと、その成虫が産んだ卵からその年のうちに成虫になるものがあります。前者が5月上旬～6月中旬、後者が7月下旬～9月中旬に発生します。幼虫の食樹はサカキ、ヒサカキで、成虫、幼虫ともくさい臭いを出します。

図1 ホタルガ



成虫：開張4.5～6.0cm



幼虫：体長2.5～2.8cm

市内では、マダラガ科に属し昼間活動する種類が、ほかにも5種類記録されています。ホタルガによく似ていて、後ろ翅が白いシロシタホタルガ、毎年秋1回だけ成虫が出現するミノウスバ、連載第1回の「身近な毒のある蛾」で紹介したタケノホソクロバなどです。

## 2. オオスカシバ (スズメガ科、図2)

花の蜜を吸っている光景を、よく見かけます。特に公園などに植えられている低木のアペリアで見かけることが多く、「透かし翅」の名前の通り透明な翅を高速で羽ばたかせながら、飛んだままストロー状の口を伸ばして蜜を吸っています。その時の姿はハチに似ていて、勘違いされることも多いようです。

翅は、羽化したばかりの時は他の蛾と同じように鱗粉で覆われています。その後、体が固まって初めて飛ぶ時に、翅を震わせて鱗粉を落としてしまいます。

発生は年2回で、5月中旬と、7月下旬～9月下旬に発生します。幼虫はイモムシで、クチナシにつきます。全身が黄緑色で、体の後ろにある角のような突起が目立ちます。

図2 オオスカシバ



成虫：開張5.0～7.0cm



幼虫：体長6.0～6.5cm

## 3. ホシホウジャク (スズメガ科、図3)

全体の形はオオスカシバに似ていますが、こちらは羽化後も鱗粉を振り落とすことがなく、そのため翅には鱗粉による色と模様が見られます。前翅は褐色を帯びた黒紫色、後翅は褐色の地に黄色の帯模様があります。また、褐色の胴体にも黄色の斑紋があります。

発生は年3回～4回もあり、5月中旬から11月上旬にかけて出現します。幼虫は、市内でも普通に見られるつる植物のヘクソカズラを食べます。

なお、ホウジャクとは「蜂雀」で、ハチに似ているスズメガという意味です。市内では他に、ヒメクロホウジャクとホシヒメホウジャクの記録があります。

図3 ホシホウジャク



成虫：開張4.0～5.0cm



幼虫：体長4.5～5.5cm

## ●身近な植物を食べる

市内で見られる屋間活動する蛾は、前述の3種に限らず、大半が市街地に生息しています。幼虫が餌とする植物も身近に生育しているものが多く、次のようなものがあります。

### 【身近な野草】

- ・ヘクソカズラ
  - ホシホウジャク
  - ヒメクロホウジャク
  - ホシヒメホウジャク
- ・アカネ、アケビ
  - ヒメクロホウジャク
- ・ツルウメモドキ
  - トンボエダシヤク
  - ヒロオビトンボエダシヤク
- ・ツメクサ、スギナ、スイバ、ギシギシ、タンポポ類
  - カノコガ

### 【庭木、公園などの植栽木】

- ・ヒサカキ
  - ホタルガ
- ・クチナン
  - オオスカシバ
- ・ウメ、モモ、サクラなど
  - ウメエダシヤク
  - ウメスカシクロバ
  - コスカシバ

### 【園芸植物】

- ・ショウブ、セキショウ
  - ツマキホソハマキモドキ

### 【生け垣など】

- ・マサキ
  - ミノウスバ

## ●都市の緑化と屋間活動する蛾

どんな生物でもそうですが、餌のあるなしは、その生物の生息を左右する重要な要素です。蛾の場合でいうと、幼虫の餌となる植物、成虫の餌となる蜜や樹液、このようなものがあるかどうかで、その種類が生息できるかどうかが決まります。

市内で見られる屋間活動する蛾は、幼虫の餌が庭や公園に植えられている植物であったり、ちょっとした緑地でも生育できる野草であるため、市街地であっても生息条件が整っています。成虫についても、餌となる蜜を持つ花は庭や公園に盛んに植えられますし、樹液もさまざまな植栽木から得ることが可能です。

都市の緑化は、人間にとっての住みやすさを追求したものです。従って、そういう観点からすると、これら屋間活動する蛾は害虫ということになります。事実、蛾の図鑑にはオオスカシバの「食草」としてクチナンがあげられ、園芸の図鑑ではクチナシの「害虫」としてオオスカシバがあげられています。本来、両者の立場は相いれないものなのかもしれません。しかし、屋間活動する蛾はそんな中でもしぶとく生き抜いているのです。

前回、雑木林とともに姿を消しつつある蛾として、ヤマユガの仲間を紹介しました。これらの幼虫はクヌギ、コナラなどのブナ科の樹木を餌とし、雑木林の減少とともに市内から姿を消しつつあります。庭や公園の植物を餌として都市でしぶとく生き抜く蛾、餌とともに林という環境も必要とする蛾、これらは非常に対照的な存在です。



# 街かど自然探訪

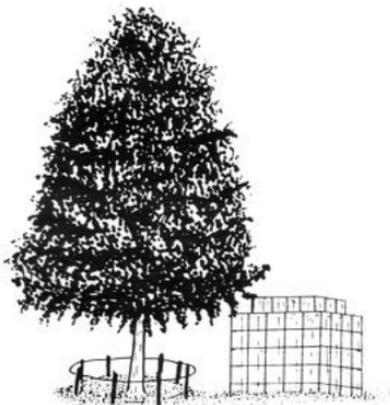
おじゃまします!

## ひのこ 日之出・公園と街路のイチョウ

南浜公園には、公園のシンボルツリーとでもいうように、1株だけ独立して植えられているイチョウがあります。幹はそれほど太くないですが、枝をのびのび張り出し葉がこんもり繁っています。

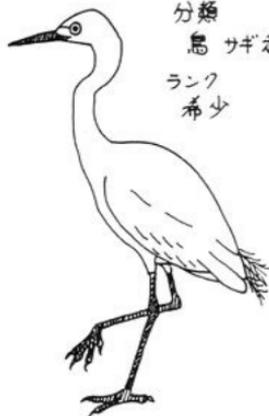
バス通り沿いにもイチョウが植えられています。街路樹は強く剪定されてしまうので、こちらは幹の上の方に細くて短い枝があるだけで、葉もまばらです。

同じ種類の木でも、植えられる場所や管理の仕方によって、随分違うものです。



## RDB レッドデータブック

### 掲載種紹介



分類  
鳥 サギ科  
ランク  
希少

## チュウサギ

白鷺の名で総称されるサギのうちの1種です。渡り鳥で、日本には繁殖のために渡ってきます。高度成長期以前には、白鷺の中でももっとも普通にみることができました。しかし、その後は激減し、今ではコサギやダイサギに比べて数が少なく、なかなか見ることができません。

水生昆虫を、おもな餌としています。そのため魚やザリガニを主食とするコサギ、ダイサギよりも、水田の減少や乾田化の影響を強く受けたと言われています。



わたしの  
**観察**  
 ノート  
 No. 39

◆自然観察園より

- ・確認された野鳥の繁殖記録です。ハシボソガラス(5/7:幼鳥)、コゲラ(5/7:幼鳥)、ホオジロ(5/14:幼鳥)、シジュウカラ(5/21:幼鳥)、ヒヨドリ(5/21:幼鳥)、メジロ(5/28:幼鳥)。

- ・ハンノキの下に生えているカササゲの葉の上で、翅を広げてとまっているミドリシジミの雄1頭を見ました(6/4)。

須藤 治(自然博物館)

- ・雌雄と思われる2匹のモツゴが、池の水面近くでもつれるようにして泳いでいました。おそらく繁殖行動だと思います(5/28)。

金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・キタテハとサトキマダラヒカゲが、クリの花で蜜を吸っていました。クヌギの幹では、キイロスズメバチが樹液を吸っていました(6/4)。

安藤ゆき子さん(新田在住)

◆北方遊水池付近より

- ・コチドリが繁殖したようです。雛や卵を直接確認はしませんでした。親が外敵に対して行う偽傷行動が観察できました(6/24)。

須藤 治

◆江戸川より

- ・群れ飛ぶツバメに混じて、イワツバメが1羽いるのを見ました(6/7)。

◆じゅん菜池より

- ・カルガモの親1羽について泳ぐ幼鳥4羽を見ました。久しぶりの繁殖成功です(6/29)。

◆堀之内貝塚より

- ・メボソムシクイがさえずっていました(5/16)。

◆国府台より

- ・ゲートボール場でアオバズク(幼鳥3羽)が巣立ちました。親鳥2羽と計5羽でケヤキの枝にとまっていました(7/19)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

- ・ホトトギスの声を聞きました(7/4)。
- ・セミの声です。ヒグラシとニイニイゼミ(6/29)、ミンミンゼミ(7/18)。

秋元久枝さん(国府台在住)

◆東国分より

- ・田植えが終わったばかりの田んぼで、ギンヤンマがしきりに卵を産んでいました(5/16)。

金子謙一

◎日照不足の5月でした。

梅雨は、6月2日からはじまりました。

# 🌱 2・3月の行事案内 🌱

## 🌿 自然観察会

- ・親子向けコース…親子で楽しく身近な自然に親しみます。申込み先着10組。  
(小さなお子さん連れでの参加もどうぞ)
- ・一般向けコース…身近な自然をわかりやすく解説します。申込み先着20名。

テーマ	月日	コース名	時間	場所	受付開始日
観察園の野鳥	2月13日(土)	親子コース	午前9時30分	自然観察園	1月15日～
	2月14日(日)	一般コース			
地層の観察	3月13日(土)	親子コース	午前11時30分	大町周辺	2月15日～
	3月14日(日)	一般コース			

## 〒 申込み方法

各行事とも往復ハガキに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号・返信のあて先を書いて、受付開始日(消印)以降に自然博物館までお申込みください。

## 🌿 スライドによる自然講座

市内の自然の様子を写真スライドを使って解説します。

受講は無料、申込みは必要ありません。直接会場にお越しください。

◎時間 午後6時～8時

◎会場 市民談話室(JR線本八幡駅、京成線京成八幡駅より徒歩3分)  
駐車場はありません。バス、電車をご利用ください。)

◎内容 2月6日(土) 市川の植物#7      ジンチョウゲ科～ミカン科

2月13日(土) 市川の林を巡る#4      大野町～大町の林

2月20日(土) 市川の動物#6      エビ、カニ類

## 🌿 休館日のご案内 🌿

### ・毎週月曜日

ただし月曜日が休日の場合は翌日

(3月22日(日)振替休日は開館)

### ・年末年始

(年内は、平成10年12月27日まで

年始は、平成11年1月3日から

開館いたします。)

・館内整備のため臨時休館いたします。

平成11年2月23日～26日

市立市川自然博物館だより

第10巻 3号 (通巻第57号)

発行日/平成10年12月15日

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272-0801 千葉県市川市大町 284番地

☎ 047(339)0477

<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>